

ったサンフレッチェ広島戦に招待した。
御船FCが日ごろ使っている御船小学校のグラウンドは、被災者の車が止めてあるほか、物資を搬送する車両などが出入りする。こ

東日本大震災と東京われた福島県浪江町で言を基に制作された消防団物語『無念』(分)＝写真＝を上映し語る集いが6月3日(中央区荒戸3丁目の市民ザ) 1階ホールで開



原発事故で救
浪江消防団

避難せざるを得なかった地元「らの声」と題して体験を語る。消防団員たちの後悔や苦悩を 入場料500円。東日本大震災の被災者は無料。問い合わせは、井上さん090(3665)5140。

福岡市で被災者体験談も

福岡市中央区今泉の一戸建てを改築したインバウンド(訪日外国人客)向けの観光案内所「SUITO FUKUOKA(好いとう) FUKUOKA」でおかみとして奮闘している。ガイドブックに掲載していない福岡の魅力を紹介したり、和文文化体験のイベントを開いたり…。理想は「外国人も地元の人も日常的に集まる公民館」のような空間だ。
出身は長崎県南島原市。海外への興味の原点は、家族の存在だ。祖父母は一時、マレーシアやインドで働いており、母親はインドで生まれた。家族の話聞く中で、海外との関わりを意識するようになった。大学時代は長期休暇のたびに、バックパッカーとして各国を旅行。「違う価値観、人に

観光案内所「SUITO FUKUOKA」
おかみ



しちじょう 七 條
ふ み 芙美さん(37)

＝福岡市博多区

人つなぐ「公民館」に

出会うのが面白かった」と振り返る。
観光に携わるようになったのは、フードコーディネーターの資格を取り、地域活性化コンサルタントの下で学ぶようになってから。

自身もコンサルタントとしてご当地グルメの開発や観光振興に携わってきた。日本語教師や飲食店、代理店営業など国内外でさまざまな仕事に就いた経験が生きているという。

2015年8月にオープンした「SUITO」は案内所に和室のカフェバーを併設し、夜には本格的な和食を楽しめる。東京の運営会社に誘われてコンサルタントに参加し「コンサルタントは外から客観的にみる立場。当事者は泣くほど本気。同じ立場になりたい」と、おかみになることを決意した。当初は企画したイベントなどに人が集まらず苦労したが、情報発信を続



け、徐々に多くの国の言語が交わされる「公民館」に近づいた。
今春開いたお花見には60人ほどが参加し、外国人と地元の人が笑顔で語り合っていた。理想の姿を現できて涙ぐんだ。「大切な思い出の中に、この時間を刻んでもらいたい」

(佐橋史直)